

シラバス・観点別評価規準例

教科	科目	学科	学年	単位数	使用教科書	使用副教材
数学	数学A	全学科	2	2	新 高校の数学A(数研出版)	教科書学習ノート数学A(数研出版)

1 科目の目標と評価の観点

目標	図形の性質，場合の数と確率について理解させ，基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り，数学と人間の活動の関係について認識を深め，事象を数学的に考察する能力を培い，数学のよさを認識できるようにするとともに，それらを活用する態度を育てる。		
評価の観点	知識・技能	思考力・判断力・表現力	主体的に学習に取り組む態度
	図形の性質，場合の数と確率についての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに，数学と人間の活動の関係について認識を深め，事象を数学化したり，数学的に解釈したり，数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。	図形の構成要素間の関係などに着目し，図形の性質を見いだし，論理的に考察する力，不確実な事象に着目し，確率の性質などに基づいて事象の起こりやすさを判断する力，数学と人間の活動との関わりに着目し，事象に数学の構造を見いだし，数理的に考察する力を養う。	数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度，粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度，問題解決の過程を振り返って考察を深めたり，評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。

2 学習計画と観点別評価規準

第1章 場合の数と確率 *次の表は、「場合の数と確率」「図形の性質」を選択し，この順に履修する場合である。以下，履修月はあくまでも目安である。

学習内容 (配当時間)	月	学習のねらい	観点別評価規準例		
			知識・技能	思考力・判断力・表現力	主体的に学習に取り組む態度
第1節 場合の数	4	場合の数を求めるときの基本的な考え方についての理解を深め，それらを事象の考察に活用できるようにする。	○共通部分，和集合，空集合，全体集合，補集合など集合に関する用語を理解し，それらを求めることができる。 ・例 2~3, 練習 2~3	○条件を満たすものを集合の要素として考え，表すことができる。 ・例 1, 練習 1	○集合の考えについて興味をもち，いろいろな集合を表そうする。 ・ p.8~9
			○集合の要素の個数を，数え上げることによって求めることができる。 ・例 4, 練習 4 ○補集合や和集合の要素の個数の公式を理解し，それらを用いて要素の個数を求めることができる。 ・例 5, 例題 1, 練習 5~6	○ものを数え上げるのに集合を利用して考察することができる。 ・ p.10~12 ○ベン図を利用して集合を図示することで，補集合や和集合の要素の個数を考察することができる。 ・ p.11~12	○ベン図や公式を利用することで，集合の要素の個数を数学的に数えようとする。 ・ p.10~12

<p>3. 和の法則と積の法則 (3)</p>	<p>5</p>	<p>○樹形図を用いたり順序だてて並べたりすることで、場合の数をもれなく重複なく数えることができる。 ・例 6, 練習 7</p> <p>○和の法則や積の法則の利用場面を理解し、事象に応じて使い分けて場合の数を求めることができる。 ・例 7~9, 練習 8~9</p>	<p>○和の法則を、表を利用することで、また積の法則を、樹形図の特別な場合として考察することで見いだすことができる。 ・ p.14~15</p>	<p>○場合の数を求めるのに、効率的に考えることができる法則 (和の法則・積の法則) があることに興味をもち、使いこなそうとしている。 ・ p.14~15</p>
<p>4. 順列 (5)</p>		<p>○順列の意味を理解し、公式を利用することができる。 ・例 10~11, 練習 10~11</p> <p>○簡単な場合の数を、順列の考えを利用して求めることができる。 ・例 12, 練習 12</p> <p>○すべてを取った順列の総数から得られる階乗とその記号を理解し、それを活用できる。 ・例 13, 練習 13~15</p> <p>○様々な場合の数を、順列, 円順列, 重複順列に帰着させて求めることができる。 ・例題 2~4, 例 14, 練習 16~20</p>	<p>○となりあう場合の順列のような、特殊な条件が付く順列を、見方を変えたり別なものに対応させたりして処理することができる。 ・例題 2, 練習 16</p> <p>○既知の順列や積の法則をもとにして、円順列, 重複順列を考察することができる。 ・例題 3~4, 例 14, 練習 17~20</p>	<p>○様々な場合の数を求めるのに、順列の考え方が使えることに興味・関心をもつ。 ・ p.16~21</p> <p>○順列, 円順列, 重複順列の違いを見い出そうとしている。 ・ p.19~21</p>
<p>5. 組合せ (6)</p>	<p>6</p>	<p>○組合せの意味を理解し、公式を利用することができる。 ・例 15~16, 練習 21</p> <p>○簡単な場合の数を、組合せの考えを利用して求めることができる。 ・例 17, 練習 22~23</p> <p>○組合せの性質を理解し、公式を利用することができる。 ・例 18, 練習 24</p> <p>○様々な場合の数を、組合せの考えを利用して求めることができる。 ・例題 5~8, 練習 25~29</p>	<p>○組合せの総数と順列の総数の関係を理解し、順列の総数をもとにして、組合せの総数を考察することができる。 ・ p.22~23</p> <p>○特殊な条件が付く組合せを、見方を変えたり別なものに対応させたりして処理することができる。 ・例題 5, 練習 25~26</p>	<p>○順列と組合せの違いや、様々な場合の数を求めるのに、組合せの考え方が使えることに興味・関心をもつ。 ・ p.22~27</p> <p>○組合せの考え方を利用して、図形の個数や遠回りをしない道順などの具体的な事象の場合の数を求めようとする。 ・例題 6~8, 練習 27~29</p>

	コラム クラス分けの 総数				○クラス分けの総数という身近な事柄に組合せの考え方が用いられることに興味をもち、その有用性を認識する。 ・ p.28 コラム	
	確認問題 (4)			○問題をランダムに配した「まとめ」を解く際、どの公式や考え方を使えばよいかを的確に判断できる。 ・ 確認問題 16		
第 2 節 確 率	1. 事象と確率 (3)	7	確率の意味と確率を求めるときの基本的な法則や考え方についての理解を深め、それらを事象の考察に活用できるようにする。	○試行の結果としての事象を集合として表すことができる。 ・ 例 1, 練習 1 ○確率の定義を理解し、簡単な確率を求めることができる。 ・ p.33~34, 例 2, 練習 3~4 ○確率の性質を理解している。 ・ p.35	○試行の結果を事象としてとらえ、事象を集合と結びつけて考察することができる。 ・ p.32 ○ものごとの起こりやすさを、同様に確からしいという概念をもとに数量的に考察することができる。 ・ p.34	○さいころを何回も投げる実験において、ある目が出る割合が一定の値に近づくことに興味をもち、その値の求め方を考えようとする。 ・ p.33~34 ○ものごとの起こりやすさを、数値を使って計算で求めようとする。 ・ p.34
	コラム 精巧に作られた さいころ					○理論上のさいころと実生活におけるさいころの厳密性の違いを知ること、数学が理論的な思考によって成り立っていることに興味・関心をもつ。 ・ p.35 コラム
	2. 確率の計算 (5)	9		○表や組合せの考えを活用して、確率を求めることができる。 ・ 例題 1~2, 練習 5~7 ○排反事象の意味を理解し、確率を求めることができる。 ・ 例 3, 例題 3, 練習 8~10 ○余事象の意味を理解し、確率を求めることができる。 ・ 例 4, 例題 4, 練習 11~13	○排反事象や余事象の確率などを利用して、複雑な事象の確率を考察することができる。 ・ p.38~41	○これまでに学んだ確率の性質を利用して、いろいろな場合の確率を意欲的に求めようとする。 ・ p.36~41
	3. 独立な試行と確率 (3)			○試行が独立か、独立でないかを判断することができる。 ・ 練習 14 ○独立な試行の確率を、公式を用いて求めることができる。	○独立な試行の確率を、具体的な例から直観的に考えることができる。 ・ 例 5 ○反復試行の意味を理解し、確率の	○独立な試行の確率や反復試行の確率について、興味をもって求めようとする。 ・ p.42~45

			<ul style="list-style-type: none"> ・例題 5, 練習 15~16 ○反復試行の確率を, 公式を用いて求めることができる。 ・例題 6, 練習 17~18 	<p>求め方を組合せの考えと関連付けて考察することができる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・例 6 		
4. 条件つき確率 (3)	10		<ul style="list-style-type: none"> ○条件つき確率の定義を理解し, 確率を求めることができる。 ・例 7~8, 練習 19 ○確率の乗法定理を理解し, 確率を求めることができる。 ・例題 7, 練習 20~21 	<ul style="list-style-type: none"> ○確率の乗法定理を利用することで, くじを引くときの順番には当たる確率は関係がないことを理解し, 説明することができる。 ・練習 21, p.6~7 (章扉) 	<ul style="list-style-type: none"> ○条件つき確率や確率の乗法定理の考えに興味・関心をもち, 活用しようとする。 ・p.46~49 ○確率の乗法定理を活用して, 「くじを引く順番と確率」といった身近な確率の問題解決に積極的に取り組もうとする。 ・練習 21, p.6~7 (章扉) 	
5. 期待値 (2)			<ul style="list-style-type: none"> ○期待値について理解し, いろいろな場合の期待値を求めることができる。 ・例題 8, 練習 22~23 ○損得判断をするときに, 期待値を判断材料の 1 つとして利用することができる。 ・練習 24 	<ul style="list-style-type: none"> ○期待値を, 確率の考えに基づいて考察することができる。 ・p.50 ○損得を考える際に, 期待値をどのように活用すればよいかを判断し, 説明することができる。 ・練習 24 	<ul style="list-style-type: none"> ○賞金や得点などの期待を, 客観的な数値で表すことに興味をもち, 期待値を求め, 考察しようとする。 ・p.50~52 	
コラム 同じ誕生日の人がいる確率						<ul style="list-style-type: none"> ○クラスに同じ誕生日の 2 人組がいる確率はどの程度かという身近な事柄に興味をもち, 確率の考え方の有用性を認識する。 ・p.52 コラム
確認問題 (3)					<ul style="list-style-type: none"> ○問題をランダムに配した「まとめ」を解く際, どの公式や考え方を使えばよいかを的確に判断できる。 ・確認問題 11 	
問題 (1)						

第2章 図形の性質

	学習内容 (配当時間)	月	学習のねらい	観点別評価規準例		
				知識・技能	思考力・判断力・表現力	主体的に学習に取り組む態度
第1節 平面図形	1. 図形の基本 (3)	11	平面図形の性質についての理解を深め、それらを事象の考察に活用できるようにする。	○図形の基本性質を理解し、それらを用いて角の大きさや辺の長さを求めることができる。 ・ p.58～63	○角の大きさや辺の長さを求めるのに、図形のどの基本性質を使えばよいか判断できる。 ・ 例 1～3, 練習 1～6	○図形の基本的な性質について既に学んだ事項を思い出し、それらを活用できる場面を見いだそうとしている。 ・ p.58～63
	2. 角の二等分線と線分の比 (1)			○角の二等分線と線分の比の定理を理解し、それを用いて辺や線分の長さを求めることができる。 ・ 例 4, 練習 7	○角の二等分線と線分の比の定理を証明するのに、既習事項を用いて、論理的に考察することができる。 ・ 性質 13 の証明	○外角の二等分線についても内角の場合と同様の定理が成り立つことに興味をもつ。 ・ p.65
	3. 三角形の外心, 内心, 重心 (6)	12		○三角形の外心, 内心, 重心の定義とその性質を理解し、それらを用いて角の大きさや線分の長さを求めることができる。 ・ 例題 1～3, 練習 8～11	○三角形の外心, 内心, 重心の性質を証明するのに、既習事項を用いて、論理的に考察することができる。 ・ p.66, 68, 70 の各証明	○三角形の外心, 内心, 重心に関する性質に興味をもち、考察しようとする。 ・ p.66～71
	4. 円周角の定理 (2)			○弧, 弦, 円周角, 中心角など円に関する用語を理解している。 ・ p.72 ○円周角の定理を理解し、角の大きさを求めることができる。 ・ 例 5, 練習 12	○円周角の定理の逆を理解し、等しい角に着目して考察することができる。 ・ 練習 13	○中学校で学んだ円周角の定理とその逆を思い出し、それらを活用しようとしている。 ・ p.72～73
	5. 円に内接する四角形 (2)			○円に内接する四角形の性質を理解し、角の大きさを求めることができる。 ・ 練習 14	○円に内接する四角形の性質やその逆を証明するのに、既習事項を用いて、論理的に考察することができる。 ・ 性質 19～20 の証明 ○四角形が円に内接する条件について、対角に着目して考察することができる。 ・ 練習 15	○四角形が円に内接する条件に興味をもち、考察しようとする。 ・ p.74～75
	6. 円の接線 (3)	1		○接線と弦のつくる角の性質を理解	○円と直線を動的にとらえて、それ	○円の接線にはいろいろな性質があ

		<p>し、角の大きさを求めることができる。</p> <p>・例 6, 練習 16</p> <p>○円の接線の長さが等しいことを理解し、辺や線分の長さを求めることができる。</p> <p>・例題 4, 練習 17</p>	<p>らの位置関係を考察することができる。</p> <p>・p.76</p> <p>○接線と弦のつくる角の性質を証明する際に、場合分けをしながら考察することができる。</p> <p>・性質 21 の証明と本文</p> <p>○円の接線の長さが等しいことを証明するのに、既習事項を用いて、論理的に考察することができる。</p> <p>・性質 22 の証明</p>	<p>ることを知り、それぞれの性質と活用法について興味をもつ。</p> <p>・ p.76~78</p>
7. 方べきの定理 (2)		<p>○方べきの定理を理解し、線分の長さを求めることができる。</p> <p>・例 7, 練習 18</p>	<p>○方べきの定理を証明するのに、既習事項を用いて、論理的に考察することができる。</p> <p>・性質 23~24 の証明</p> <p>○方べきの定理①の割線 PCD を動的にとらえて接線 PT を考えた場合が、方べきの定理②であるという数学的な見方ができる。</p> <p>・ p.79~80</p>	<p>○相似を利用した方べきの定理の導き方に興味をもつ。</p> <p>・ p.79~80</p>
8. 2つの円 (1)		<p>○2つの円の位置関係には5つのパターンがあることを理解している。</p> <p>・ p.81</p>	<p>○2つの円の位置関係を、動的な視点によって観察・分類することができる。</p> <p>・ p.81</p>	<p>○2つの円の位置関係について、中心間の距離と半径の関係を積極的に考察しようとする。</p> <p>・ p.81</p>
9. 作図 (3)	2	<p>○中学校で学んだ基本的な作図を行うことができる。</p> <p>・ p.82~84</p> <p>○円の接線を、基本的な作図の組み合わせによって描くことができる。</p> <p>・例 10, 練習 22</p>	<p>○さまざまな図形を、基本的な作図の組合せによって描くことができることを説明することができる。</p> <p>・例 8~10, 練習 20~22</p>	<p>○コンパスと定規を使って作図に積極的に取り組もうとする。</p> <p>・ p.82~85</p> <p>○作図に対して、なぜそれが正しいか考え、説明しようとする態度がある。</p> <p>・ p.85</p>
コラム 星形の図形の角の和			<p>○星形の図形の角の和を求めるのに、既習の知識が使えることに気づき、角度の求め方を考察することができる。</p>	<p>○星形の図形の角の和の問題に興味をもち、さらに複雑な星形の角の問題に取り組もうとする。</p> <p>・ p.86 コラム</p>

	確認問題 (2)	
第2節 空間図形	1. 空間の直線, 平面 (2)	3
	2. 正多面体 (2)	
	コラム 正多面体の種類	
	3. 立体の切断 (1)	
	問題 (1)	

		・ p.86 コラム	
		○問題をランダムに配した「まとめ」を解く際、どの公式や考え方を使えばよいかを的確に判断できる。 ・ 確認問題 8	
空間図形の性質についての理解を深め、それらを観察したり考察したりすることで、空間認識力の育成を図る。	○2 直線の関係、直線と平面の関係、2 平面の関係には 3 種類ないしは 2 種類あることを理解し、それらの位置関係を示すことができる。 ・ p.90~92	○直線と平面が垂直になるための条件を、本を立てたときの状態に当てはめるなど具体的な事例によって考察することができる。 ・ p.91	○直線や平面の位置関係にはさまざまな状態があることに興味をもち、それらの性質を理解しようとする。 ・ p.90~92
	○2 直線のなす角、直線と平面の垂直条件、2 平面の位置関係について理解し、角の大きさやそれらの関係性を求めることができる。 ・ 練習 1~3	○直線や平面が平行または垂直となるかどうかを、立方体を例として考察することができる。 ・ 練習 1~3	
	○多面体や正多面体の定義を理解し、それらの頂点、辺、面の数を求めることができる。 ・ 練習 4~5	○多面体の頂点、辺、面の数に関して成り立つ性質を具体的な例によって確認し、説明することができる。 ・ 練習 5~6	○多面体に関して成り立つ性質について興味をもち、その性質を確認しようとしている。 ・ p.93~94
	○正多面体の特徴を理解し、正多面体が 5 種類のみであることを知っている。 ・ p.93	○正多面体が 5 種類しかないことの説明について、1つの頂点に集まる内角に着目して考察することができる。 ・ p.95 コラム	○正多面体が 5 種類しかないことに興味をもち、その理由を考えようとしている。 ・ p.95 コラム
○立体を平面で切り取ったときの切り口の形や切り取られてできる立体について、どのような形状になるかを理解している。 ・ 例 1, 練習 7~8	○立体の切り取り方によって切り口の形が異なることや、そのときの切り口の特徴について説明することができる。 ・ 練習 7	○立体の切り口の形がどのようなのかについて興味をもち、その特徴を見つけ出そうとしている。 ・ p.96~97	
		○外心の考えを用いて、3点から等しい距離にある点を作図によって求	

				められることを説明することができる。 ・問題 1, p.56～57 (章扉)	
	コラム 正多角形の穴の 開くドリル				○ドリルで開く穴の形に着目することで、図形の面白さに触れようとしている。 ・ p.99 コラム